

第41回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和6年3月19日（火） 14時00分から16時30分まで
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室みなと1・2・3
出 席 者	池島委員（web）、池邊委員、今関委員、岩本委員、内海副座長、奥井委員、国吉委員、進士座長、関根委員、高田委員、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	石原委員、小野委員、野路委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	<p>1 横浜みどりアップ計画5か年進捗状況および 横浜みどりアップ計画市民推進会議2023年度報告書（案）について</p> <p>2 横浜みどりアップ計画市民推進会議 座長選出について</p> <p>3 その他</p>
議 事	<p>（事務局） 定刻になりましたので、始めさせていただきます。私は進行を務める、政策課の佐藤です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日は、委員の皆様には万障お繰り合わせの上お集まりいただき、誠にありがとうございます。これより、第41回横浜みどりアップ計画市民推進会議を開催します。</p> <p>本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっています。本日、定数16名のところ11名出席していますので、会議が成立していることを報告します。</p> <p>本会議ですが、同要綱第8条により公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。委員の皆様には事前にご了承いただきたいと思います。なお、会議録には、個々の発言者氏名を記載いたしますので、あわせてご了承ください。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページ及び広報誌等へ掲載させていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>次に、事前に送付させていただいた資料の確認をお願いします。次第、資料1「横浜みどりアップ計画市民推進会議2023年度報告書（案）」です。</p> <p>次に、席上に配付した資料について説明します。「参考資料」として、2024年1月末時点での進捗一覧、前回の本会で使用した実績のスライド、みどりアップ計画の冊子、これまでの市民推進会議報告書を綴じた緑色のフラットファイルを置かせていただいております。</p> <p>次に、事前送付した報告書の差替えページ1枚をお配りしております。</p> <p>また、先月策定した横浜みどりアップ計画[2024-2028]の冊子もお配りしています。是非お持ち帰りいただき、ご一読ください。</p> <p>以上ですが、過不足等ありますか。</p> <p>それでは、議題に入る前に事務局側の出席者を紹介いたします。</p> <p>（事務局参加者紹介）</p>

	<p>(事務局) それでは、代表して環境創造局長の遠藤よりご挨拶させていただきます。</p> <p>(事務局) 改めまして、皆さん、こんにちは。環境創造局長の遠藤です。今日はこの年度末の忙しい中、みどりアップ計画市民推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。環境行政を進めていく上で、この市民推進会議は本当に大事な会議です。今日もどうぞよろしくお願ひします。</p> <p>2009 年に始まったみどりアップ計画も、今年度で 3 期目 15 年の節目を迎えました。やはりみどり政策は、次世代にしっかりと引き継いでいくためにも、引き続き継続していく必要があることを、この 1 年間、市会はじめ市民の皆様にも訴えかけてきました。「晴れて」という言い方をしますが、昨年 12 月に、令和 6 年度からの第 4 期みどりアップ計画と、その財源の一部となるみどり税の延長を議決していただきました。多くの議論の中で「これからもしっかりと進めてもらいたい」という声がある一方、まだまだみどりの取組を理解してもらえていない部分もあります。15 年間で多くの成果を挙げてきたと思っていますが、「共感・実感をしてもらえる場が少ない」等々、意見をもらいました。こういった意見をしっかりと踏まえ、2 月には新しい計画を策定しました。いよいよこの 4 月からは、この計画も 4 期 16 年目になります。引き続き、きたんのないご意見をいただきながら、未来に向けてみどりの政策を進めていきたいと思っています。</p> <p>この環境創造局は平成 17 年に下水道局、環境保全局、緑政局という 3 局が一つになって生まれました。「水・みどり」という大きなキーワードの中、「かけがえのない環境を未来へ」というスローガンを掲げ、一生懸命取り組んできました。</p> <p>当時、「環境」といっても、庁内でも何をやっているのか理解されていない面がありました。しかし、皆様にきたんのない意見をもらいながら、この 19 年間環境行政に取り組んできた結果、庁内でも比較的、環境への意識が芽生え、意識醸成が図られてきたのかなと思っています。</p> <p>昨今ますます色々な課題が出てくる中で、より専門性やスピード感を持ってこのみどり行政に取り組んでくために、環境創造局はこの 3 月 31 日をもって解消することになります。</p> <p>これを引き継ぐ新しい局が 4 月 1 日からできます。正確には、3 月 26 日の議決を経て誕生しますが、新局は「みどり環境局」という、よりスリムなスタイルになります。今まで一緒にやっていた下水道は河川部隊と一緒に、「下水道河川局」という新しい局ができます。</p> <p>更には、「GREEN×EXPO 2027」に向けて新しい局もできます。この環境創造局が培ってきた様々な経験、ノウハウを、みどり環境局のみならず新しい局、更にはほかの局にも引き続き浸透させながら、唯一無二の貴重な環境行政を、滞ることなく進めていきたいと思います。これからも皆様の意見をしっかりと受け止めながら取り組んでまいります。</p> <p>今日は、新年度を迎えるにあたり、3 期目 5 か年のみどりアップ計画の振り返りをしてもらいたいと思います。ご議論のほど、どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>今日のこの会議をもって最後になる委員もいます。大きな節目になる会議だと思っていますが、これまでどおりきたんのない意見をもらえればと思います。本日はどうぞよろしくお願ひ</p>
--	--

	<p>します。</p> <p>(事務局) 事務局からは以上となります。この後の進行は進士座長にお願いします。進士座長、よろしくお願ひいたします。</p> <p>(進士座長) 皆さん、こんにちは。      「みどり環境局」となるのですか。「環境創造局」になったときに私は「環境を創造してしまうのか。すごい」と、冗談を言いました。      今度は「みどり環境局」と、非常に分かりやすくなりましたね。でも、環境行政としては「環境創造局」のほうが正しいのかもしれません。みどりや水、大気は環境の要素です。本当は、もっとトータルなまちを目指すのが正しいのですが、行政的には「環境創造」という抽象的な言葉はやはり難しいです。どこでもそうです。「総合化」といいますが、名前が非常に難しいです。これから横浜市は新しい時代に入るということで、大変大きな期待をしています。よろしくお願ひします。</p> <p>藤田理事がいますので、全国都市緑化フェアの話をしようと思います。あのとき、私はみどりというの花だけではないだろうと思って、彼我庭園のピースランタンを提案しました。</p> <p>戦後間もなく、平沼市長のとき、横浜はかなりの土地が接収されていました。そんな中、アメリカに対して平和のメッセージを横浜から発信したのです。ボストンやポートランドに送りました。</p> <p>ポートランドのジャパニーズガーデンはそれに倣い、ピースランタンをあちこちに配っています。昨年か一昨年、長崎や広島にも贈られました。パリ等にも置くと聞いています。六本木の国際文化会館の前にも置かれました。</p> <p>横浜のそういう素敵な思想性を是非アピールしたくて、彼我庭園の中にピースランタンを置きました。</p> <p>今、ウクライナやガザで戦争をしています。私は本当に寂しいし、情けないと思います。</p> <p>みどり、グリーンはアーリア語で「ガーラ」とい、「成長する」という意味です。成長というのは生命です。こういう空間は、命を一番大事にする専門のはずです。そういうパワーがなくて、赤い血を流すほうにばかり世界が動いています。</p> <p>今度の園芸博覧会は「GREEN×EXPO」ということですので、ぜひ本物の平和を取り戻してほしいと思っています。</p> <p>第4期目のみどりアップ計画書を初めて見ましたが、この写真はいいですね。田んぼと市民の森、あるいは、里山がバツと広がっていて、遠くにちらちらと人工的なものが見えます。これは素晴らしいです。</p> <p>私は四、五年前から明治神宮外苑再開発に関わっていますが、大体、新宿の超高層ビルの中に森があるような写真で明治神宮の森をアピールしているわけです。圧倒的な都市の中に唯一、こういうみどりの島があるという見せ方をしています。</p> <p>でも本当は、圧倒的なまちでは人間は生きていけないのです。みどりに包まれた中に文明があるのです。そういう意味で、青空とみどりの広がるこの写真は象徴的に見えて、素晴らしいです。</p> <p>では、早速ですが、議題1について、事務局からご説明をお願いします。</p>
--	--

	(事務局説明)
(進士座長)	<p>ご説明ありがとうございました。2つの項目について説明がありました。どちらでも構いませんので、ご意見がある方はどうぞ。</p> <p>では、まずは部会長にコメントしてもらいましょう。</p> <p>望月先生、お願いします。</p>
(望月委員)	<p>はい。森部会では、かなり積極的な意見が多かったです。どうやって次世代にみどりを残していくのか、そのために具体的にどうすればよいのかが今回の議論の論点になりました。みどりの取組の中核は、みどり税という税金を投入し、みどりの保全に生かしていくという精神です。皆さんの総意としては、これを継続していくべきという気持ちが切々と伝わってきました。</p> <p>今年度はみどりアップ計画5年目の年ですが、これまでの取組の成果が出てきたことを、委員みんなが非常に実感しています。</p> <p>最終的には、どうやって里山を守っていくかということになりますが、引き続き肅々と進めていくことが一番大事です。みどりを守っていくことは、何か奇をてらったようなことをするのではなく、次の世代にもずっと同じような形で残っていくことがとても大事だというのが皆さんの結論でした。</p> <p>実質的にどういうところにどういうふうにお金を使っているのかといった細かい点については市から説明を受けましたが、やはり次世代にどう残していくかという非常に大きな課題を、みんなが背負っていこうというのが、森部会での結論でした。</p>
(進士座長)	<p>今、望月さんがおっしゃったことは大変重要なことかもしれません。行政はやはり予算があり、事業が大体決まっていて、それぞれ担当の課や係に分散して仕事をします。そのため、継続が大事だとか、そのものの価値というのはあまり考えられないです。こういう市民推進会議の場で、そういう意見が出ることが大事なのです。</p> <p>事業報告や決算の話をたくさん聞いていると、「昨年と変わったところはここで、こういう理由です」と説明されることが多いです。細かいことを言われそうな気がするのか、先に丁寧に説明します。</p> <p>私が言うと、「あなたは責任を持ってやっているのだから、自信を持ってやっていたらいいのではないか」という気がします。行政も財団も、だいたい会計報告のような説明です。目的があって仕事して、それにお金がかかるから会計の問題もありますが、会計監査をやっているわけではありません。それこそ政府で言う「骨太」です。そういう骨太のものを議論するのは、やはりこういう色々な人が集まってやることが大事です。</p> <p>奥井さんや高橋さんは公募市民です。公募市民は今回の会議が最後の機会となるので、せっかくだからご意見をどうぞ。</p>
(奥井委員)	<p>柱1の森部会で委員をしていた奥井です。</p> <p>総じて望月先生の意見に全く同感ですが、5か年計画は数字で言えば、本当に成果が出てているということがすごく実感できます。2024年からのみどりアップ計画でどう受け継いで</p>

	<p>いくかは、やはり未来にみどりを残すという意味では、この計画書にある環境教育機能がとても大事になるのではないかと考えています。未来を担う子供たち、小中学生などが地域のみどりや自然に親しめるよう、魅力として発信するような活動をして、私たちや横浜市としても手伝いをしていくことに力を入れていくべきではないかと思いました。</p> <p>最近、栄区で果樹園の梨を使ったジュース作りの手伝いをしました。子供たちが地域を散策し、自分が住む地域のみどりや農作物の魅力を発信したいという願いをすごく感じました。けっこうそういう考えが浸透しているのかなと思います。</p> <p>昨年、こここの2階のツバキ食堂で、子供たちが考えた横浜市の18区版をやりました。これは栄区の例です。いたち川や区のマスコットをたくさん絵に描いて発信していました。横浜市でも引き続き力を入れてやっていくことが大事かなと思います。</p> <p>5年ぐらいこの委員をしていますが、全く知識もない中で、本当に市民目線でということでやらせてもらいました。</p> <p>今は引退してしまいましたが、私の父が上郷森の会の会長をしていました。そんなこともあり、市民の森についてもう少し知りたいという気持ちで、委員に立候補しました。勉強させてもらうことばかりで、とてもよかったです。機会をもらったことに感謝しています。</p> <p>この後も引き続き、みどりアップ計画を応援していきたいと思っています。</p> <p>(進士座長) 市民の森についてはお父さんの後継で、これからまたリアルに関わっていくことを期待しています。 では、高橋さんお願ひします。</p> <p>(高橋委員) 森を育む部会の委員をしていました。 ここで一番気になったのは、愛護会で一生懸命維持管理してくれている人たちの年齢がどんどん上がっていることです。どうしたら持続可能な形で森を育むことができるのかということが議論になり、森づくりボランティアに応募してくれる人たちをどう増やすかという意見などがあがりました。 しかし、森づくりボランティアに応募しても、各愛護会とのつながりはそう簡単ではありません。したがって、体験会のような形で、愛護会の人が手伝いをしてほしいときに森づくりボランティアを応募し、応募者が手伝いに行き体験するなどして、気に入った愛護会があればその中に入ってもらうのがいいかなと思いました。また、横浜の森づくりに色々な形で貢献したい森づくりボランティアには、2023年から始まった「横浜森の助っターズ」として愛護会の応援に行く仕組みもできました。このような仕組みができてきただことは、今後、横浜で森を維持していく上で重要なことだと思います。森の話で、小学生や家族で参加するようなものがあります。</p> <p>また、森づくり体験では、小学生家族で参加するものがありますが、中学・高校生に対しては、森やみどりに関係するボランティア活動などをどうやってもらうかが課題として残っていると思います。これは第4期のみどりアップの委員に色々と詰めてもらえばと思います。</p> <p>(進士座長) たしか何期か前のメンバーで、明治神宮の森の総合調査をボランティアで手伝っている若者が入りました。南池などの池もありますが、淡水魚の調査をしていました。彼も市民の</p>
--	---

森等にも関わっていたのだと思います。

どこの団体に行っても高齢化の話になり、「後継者がいない」と言います。先ほど奥井さんが「子供がふるさとに愛着を持って」という話をしていました。子供だって本当はそれを求めているのです。けれど上手につながっていないところがあります。

自治会や色々な団体、プロの愛好会のようないろいろな団体がありますが、そういうボランティア活動でも、テーマがごみや環境問題、みどりの話になったり、生き物や野鳥の団体になったり、みんな専門化してしまいます。これが日本人の素晴らしさでもありますが、困ったことなのです。専門性が強く出すぎてしまします。なので、こういうみんなで話し合える場で少しやわらげられればと思います。

世代間の問題も同じです。世代が違うとそれぞれ世代ごとに固まるので入りにくいです。極端に言うと、二つの世代以上がつながらないと支援できない仕掛けにするとか、入り口で強制的に混合させないと、どうしても世代層が分かれてしまうのです。

地方へ行っても、そういう問題は感じます。新規にUターン、Iターンといいますが、既存の人たちのコミュニティがしつかりありすぎて、なかなか入りにくいです。もうやむを得ずくつ付かなければいけない仕掛けをするしかないと感じています。行政の中の縦割と同じです。全部分かれて自分のセクターがあるので、ほかのことは意外と見えないし、付き合いもなくなってしまっています。

これはみどり環境局全体のテーマです。みどりは全ての世代をつなぐし、文学でも何でも、全てに関心を持っている人をつなげるものです。今やっている紫式部の話も、スピルバーグみたいな話も無縁ではありません。

今後公募市民を検討するときにも、混ぜることを担当者として考えてももらえたらしいのではないか。

では、農部会から内海さん、お願いします。全体像や皆さんに呼び掛けることがあればどうぞ。

(内海副座長) 農部会の内海です。

P 40に部会長コメントで書いてあります。総括的には、農に親しむ取組から地産地消の問題まで、コロナ禍ながら、かなり実績が上がってきたことを実感しています。

その結果は、新しいみどりアップ計画のP 9からP 12の、地域全体での実績に象徴されているかなと思います。市民農園や農園付公園も、農地の状態を公園化するというところで、非常に時間がかかる事業ですが、11件という成果が上がりました。そういう成果、実績はかなりあるというふうに、部会の中でも発言する人が多かったです。

一方、「農景観の保全」などというメニューもあり、遊休地対策もそれなりに展開がされています。それでも遊休地がそれなりにあるのは、農家の高齢化や後継者がいないことが原因になっているのではないかという話が出ました。市内の調整区域では、農地転用ということで、かなり広い面積の資材置場化が進んでいます。農地縁辺部に緑化をしたり、花を飾っても、すぐ脇にすごく高い塀の資材置場が次から次へとできてしまいます。そういう中で花を植えたり、緑化することにどういう意味があるのかということです。新しく景観をつくった脇でそういうことが起きてしまうと、せっかく皆さんのが一生懸命やったものがなかなか報われません。このような

	<p>話も部会の中では毎回のように出ました。</p> <p>そういう農政の基盤となるような問題がみどりアップと連携して解決に向かうような施策がないといけません。この計画の枠内だけでやっていると、みんなそこが頭に引っかかってしまいます。少し複数分野で連携してでもそういう政策展開ができないかなという意見が、部会の共通の問題意識として毎回出ており、大きなテーマだったと感じています。</p> <p>地産地消については、市民や企業、はまふうどコンシェルジュの皆さんを中心に、全市レベル・区のレベルで様々な取組がされてきました。その実績はかなりきちんとあがっています。</p> <p>これからはもう少し、生活に密着した形の地産地消の取組ができないものでしょうか。いきなり全地区で始めるよりは、幾つか条件が整ったところでモデル的にスタートしてみると、ヘルスマイトやコンシェルジュ、地産地消のサポート店といった関係者や学校などがつながれると思います。地域や身近なところでの動きが非常に大事になるのではないかと思います。</p> <p>例えば、いづみ野地区では色々な形で関わりを持っています。ああいうところではモデル的でもそういう展開を実施すると非常に面白いです。地産地消に关心ある人だけが担うより、もう少し普通に暮らす人たちにその思いをどう伝えていくかということです。そのためには地区レベルで展開するのが非常に大事になるのではないかという話が出ました。</p>
(進士座長)	<p>内田部長から何かフォローはありますか。</p> <p>また、私からもひとつ聞きたいのですが、P22の「評価・提案」で「JA横浜」が消されて「関係機関」になりました。なぜ変えたんですか。</p>
(事務局)	<p>JAだけでなく、農業委員会や様々な団体がありますので、JAも含めて、すべてを指して「関係団体」としています。</p>
(進士座長)	<p>横浜はJAは1本なのでしょう。</p>
(事務局)	<p>1本です。</p>
(進士座長)	<p>私は、JAをもっと出して仕事をしっかりともらうほうがいいのではないかと思います。「関係機関」と言うと自分は消えるので楽なのです。こういうところでちゃんと仕事してもらわなくてはいけません。日本中「JA改革」と盛んに言われます。本当の農業者との間にはちょっと溝があり、中二階のような雰囲気があるのです。</p>
	<p>JAそのものの組織維持のためだけにやっているような感じがあります。今、内海さんが言ったのはそれなのです。</p>
	<p>農政全体はJAだけでなく、農家自身が大事です。今回のようなみどりアップの素晴らしいことは、水田の保全や農業支援までやっているところにあるわけです。そこまでやっているのだから、農業団体そのものももっと本気でやってくれなければ駄目です。</p>
	<p>ここにもJA役員がいるでしょう。</p>
(事務局)	<p>今日は欠席です。</p>
	<p>進士先生が今見た部分は、柱1の樹林地の施策1について</p>

	<p>の評価・提案です。JAには、樹林地の所有者にも説明していく中で協力してもらいました。更に、「JA以外にも広げていこう」という形で、「関係団体」としています。</p>
(進士座長)	<p>内海さんのコメントにはJAは出てきませんか。私は別に、JAにだけ言っているわけではありません。農業委員会も追認して、どんどん解除しているわけでしょう。</p>
(池邊委員)	<p>P38の下から二つ目の部分に「JA横浜と連携し」と、ちゃんと入っているようです。</p>
(進士座長)	<p>では、それに期待しましょう。</p> <p>都市と地方の農業は全然違うのです。なのに、農政は農水省で色々仕切れます。農水省そのものは都市型のことを一生懸命やるようになっているのに、意外と農政そのものの中身は昔からの継続です。もう少し内海さんが言ったことに踏み込んだりして、計画的な行政にしないといけないと思います。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。</p> <p>横浜市ではみどりアップ計画に加え、来年度から新たな計画として、横浜都市農業プランを策定し、進めていきます。先週もJAに行って、引き続きしっかりと取り組んでいこうということでお話しました。</p> <p>今日、小野部長や野路委員は欠席ですが、正に内海副座長がおっしゃるような現場レベルの課題はJAも我々も共有しています。やはり地方の農業地域と都市、横浜における農家・農業の状況とは、共通しているところと全く異なるところがあります。</p> <p>共通しているところの一つは、農業の収益性がどうしてもなかなか上がりにくいところです。それが結果的に後継者や担い手不足にもつながるところがあります。都市横浜の農業は、消費者が近くにいます。食や農に関わる人たちの最近の大きな関心、期待、不安も含めて、行政としてJAとも連携しながらいかに進めていくかということを、先週正にJAと意見交換しました。お互いに、「今後しっかりと進めていこう」という認識を確認できました。</p> <p>先ほど内海副座長から、遊休地に関する事や農家の高齢化、資材置場や地産地消に関するお話をされました。我々も十分、課題感を持っています。今後の新たな取組としてどういったことができるのか、我々もしっかりと進めていきたいと思います。</p> <p>横浜の農政施策の非常に多くの部分で、横浜独自の取組を行っています。農業専用地区に始まり、最近の水田保全の奨励事業や地産地消の様々な取組も横浜独自で進めています。今後は、横浜のいわゆる業としての農業とみどりとしての農地を生かして、しっかりと進めていきたいと考えています。</p>
(進士座長)	<p>是非しっかりと進めてください。</p> <p>村松さん、公募市民なので、せっかくだから農の話をしてください。</p>
(村松委員)	<p>私は農部会所属です。</p> <p>森部会でも後継者や愛護会など、市民との協力の話がありました。農でも是非、市民の力をもっと活用してくれたらと思います。市民団体が農家を日常的に手伝うことができてい</p>

	<p>る地域もあります。農業と農地を守るために市民団体がボランティアで手伝う仕組みも視野に入れてもらいたいです。そういう市民団体もあるということで、私たちの団体のチラシを持ってきました。</p> <p>(進士座長) どうぞ配ってください。</p> <p>(村松委員) 私たち以外にも幾つかあるらしいです。 先ほども内海先生から、もっと大きな枠でみどりアップ計画をとらえていったらという話がありました。私も行政の人を長年見ていると、どうしても計画に合ったことだけをこの枠の中でやらなくてはいけなくて、そこから出られないところを感じることもあります。</p> <p>みどりというのは本当に大切です。今年の猛暑などもみんな身近に感じたと思います。猛暑以外にも、この5年本当に色々なことがあり、激動の世界でした。猛暑を防ぐのにもみどりと水はとても大事です。局の名前にも「みどり」が入ったということで、みどりアップ計画の重要性がますます増していると思います。これは昭和の人が平成につくった計画ではありますが、今の若い人は環境問題に本当に関心があるので、枠の中だけでなく、大きな目で新しい施策を考えていってもらえたたらと思います。</p> <p>(進士座長) ありがとうございました。 別に私が指名しているわけではないので、ご意見があれば手を挙げてください。 今、市民がもうこういうことを始めています。私は先ほどJAの話をしました。JAの中にもっとこういう団体が生まれるべきです。JAは農地を持っている人だけでなく、一般市民も準会員になっています。役員は農地を持っている人でないとなれないかもしれません、JAをもっと市民化し、オール横浜市民のJAにしてしまえばずっと面白くなります。健康な食事をし、汗をかいて仲間がいて、アウトドアで楽しいですから。東京都は鈴木都知事のときに「TAMAらいふ21」というのをやりました。</p> <p>農地は都市民の財産なのです。農地のあるまちとないまちではライフスタイルが全然違います。農地と付き合っている雰囲気があれば、本当はこんなにぎすぎずしないはずです。それを大前提にすると、農地は農家のものというより、市民みんなの財産なので、もう少し使い勝手をよくすればと思います。</p> <p>だから、法律も改正になりました。農水省もかなり市民が乗れるような形に都市農地を変えているのです。</p> <p>日本公園緑地協会本部と都市活用センターは同じビルにあって、階が違うだけです。横浜はいつでも、緑地について色々新しいタイプのモデルを出してきましたが、森と公園と農地は別々ではありません。両方兼ねている人もいていいし、どちらかにウェイトを置いて片方が手伝いに行くのもいいです。</p> <p>人生100年時代とはそういうことです。100年の時間を有意義に生かすためには、ビルの中だけでは面白くありません。オープンスペースやアウトドア、自然の中ということです。その自然もバラエティーに富んでいて、森のようなものもありますが、逆に公園のように華やかなものもあるかもしれません。そういうのを縦横に行き来することです。</p>
--	---

	<p>ずっと前に『グリーン・エコライフ』という本を書きました。小学館で出しています。</p> <p>今言いたかったのは、ライフスタイルを描いて、それに合うような環境整備や都市整備を考えないといけないということです。農家を応援するべきだといっても、農家が高齢化して後継者がいなくなったら、もう主体がなくなっているのです。それなのに従来の延長のような政策だけやっていてもう持ちません。だから、新しいパワーを入れることです。</p> <p>逆に、マンション住まいの人は、たまに経験するそういう作業がものすごく楽しいのです。農地は子供たちにとってもワンダーランドなのです。</p> <p>今までの価値観ではそういうふうに考えません。だけど、既にそういう時代になっています。</p> <p>先ほど奥井さんが子供たちの話をしていました。梨のジュースはおいしいのでしょうか。</p> <p>(奥井委員) おいしかったです。</p> <p>(進士座長) そういうふうに飲んだり食べたり触ったり栽培したり収穫したりというトータルな体験の中で本物になっていくわけです。学校の教育だけではそれは無理です。だんだん体験型になっていくと思います。そういう時代になっていることをふまえて、新しい物の見方を考えて、この森も農業も、まちのみどりの問題も、横断的、総合的にやってもらえると面白くなる気がします。</p> <p>では、池邊先生、お願ひします。</p> <p>(池邊委員) 計画の柱3について話します。P41です。</p> <p>私たちの会は一度散会となりましたが、2回目は全員出席で大変積極的な会が開催されました。</p> <p>最初に問題になったのは、P42の「担当者からのコメント」で赤字になっているところです。まずはP41の表が分かりにくいというところから始まりました。</p> <p>例えば、「公有地化によるシンボル的な緑の創出・育成」とあります。市民税であえて公有地化し、「シンボル的に」というのはどういうことでしょうか。なぜシンボルが必要なのだろうかということも、一般市民にはなかなかうまく伝わらないのではないかという話がありました。</p> <p>今回は、港の見える丘公園の拡張に伴う設計と、北寺尾の新しいまちの原っぱが対象でしたので、そこに対して、もう少し詳細なコメントを入れてもらいました。表の下にも、「多くの市民の目に触れる場所である」ことや、「地域に親しまれているみどりのオープンスペースの存続が困難になった場合に用地を取得する」ということを書いています。</p> <p>この市民税は、もともとはやはり森林や農地、横浜らしい景観がだんだんなくなってくるということで始められたものです。それに比べ、計画の柱3は、並木や緑地、花を創出するというようなことで、公園緑地事業として従来からやっているものと何が違うのか、非常に分かりにくいものもあります。</p> <p>そこでP41とP42を修正し、写真やコメントの修正もお願いしました。</p> <p>P43も、赤字のところにかなり手を入れました。なぜ市民が実感できるみどりをつくるのかということです。ただ実感してもらうだけでなく、まちの価値や動産価値を上げるだけ</p>
--	--

の力が、みどりや花にはあるということです。最近では民間緑化で公開緑地などが増えていますが、そういうところの見本となるような公共施設の緑化にしてほしいです。

二つ目のところで、昨今ではやはり温暖化のことが大きく言われています。一方、街路樹は豪雨で折れたりする木が多く、「切ってしまえばいい」という議論も全国的に起こっています。そこで、ここでは「特に最近の気候状況下では」ということで、緑陰の効果も入れています。

最後のところで、建築物の緑化保全契約について、皆さん相談まではいっていますが、なかなか締結に結び付かないということを担当者から説明してもらいました。市民たちに美しいまち横浜として誇りを持ってもらうために質の高い緑化が必要です。最近では、多くのオフィスビルで国際的な指標などがあるので、そういうものを参考にした新しい緑化の仕方が必要だということを入れています。

後ろのほうのP45で、子供をはぐくむ空間は、みどりの創出の目標が20か所でありながら、31か所でした。目標を大きく上回っており、よい成果だと思います。

P47の市担当者からのコメントは、ほとんど修正がありません。ただ、高齢化の問題の中で、ブリッジ人材でもいいですが、アドバイザー派遣のようなことが必要だということで、この赤字の部分だけ入れてあります。

P48で、コロナ禍でもアフターコロナでも、様々な公園の中で仕事をする人や、週1回しか会社に行かなくていい人が出てきて、地域の状況が変わりました。

先ほど座長がおっしゃられたように、旧来の自治会と新規に入った人がなかなか一緒に活動できないこともあります。そこで、「企業やNPO法人とも連携し、コミュニティガーデン等、多くの人の参加を促すことができるような取組を推進してください」という一言を入れました。

最後に、これはとても大事なことですが、「GREEN×EXPO 2027」はもちろん盛り上がると思います。前回の都市緑化フェアを考えると、非常に大成功で終わるものと期待しています。

ただ、レガシーとしてみどりや花が残るだけではなく、環境先進都市として国際的に横浜がアピールできるということを施策に入れてもらいたいと思い、評価・提案に追加しています。

最後に、私の部会長コメントの中で、コミュニティガーデンの話もしていますが、横浜は都市緑化フェアでバラによる都市のブランディングをしています。それから、やはり「SATOYAMA」には生物多様性があり、人が入ってはいけないところという考えがありました。

それをガーデンネックレスで非常に美しいガーデンとして生まれ変わらせて、多くの人を里山へ誘引しました。多くの市民が「横浜に住みたい」と思ってくれたのではないでしょうか。

今後の横浜が更なる進展を遂げ、特に環境先進都市として進み、都市住民も増えるような期待を込めて、部会長コメントとしました。

先ほど座長が「縦割では駄目だ」と言っていました。私もこれについて取り上げたいと思っていました。従来から市民推進会議でも、部会を超えて全体で話す機会が年に2回ほどしかありません。でも、最近では農福連携など、様々なところで縦割を超えた取組が行われています。既にある施策だけ

	<p>に頼っていると、横浜は先進都市ではなく後進都市になってしまいます。</p> <p>私は、横浜はずっとみどりの先進都市であってほしいし、コミュニティに対しても先進都市であってほしいと思います。是非とも新しい局の下で、3部会を連携させてできる仕組みをつくってもらいたいです。</p> <p>(進士座長) ありがとうございました。 では、国吉さんからいいですか。</p> <p>(国吉委員) 緑部会の国吉です。 私が市民推進委員になって5年たちました。はじめは、市民税がどのように使われているのか全く分からずの状態でした。もちろん、自分も払っています。会社が横浜にあるので、会社でも法人税を払っています。この税金がどういう用途で使われているのかを知りたいという本当に単純な気持ちでこの5年間務めました。</p> <p>最初は本当に分からずの状態でしたが、一つひとつ皆さんの話を聞き、部会の議論にも参加しながら理解を深めることができました。</p> <p>先日改めて、私の住んでいるまちの街路樹を見ました。「こういう基準で樹木のせん定をしている」というふうに、色々なみどりの指針を分かった上で見上げてみると、本当にそのとおりにせん定されていることを確認したばかりです。ちょうど冬だったのでせん定の時期だったと思います。「これなのだな」ということを正に実感した限りです。これを広報でどれだけ皆さんに伝えられたか、まだ疑問が残るところもたくさんありますが、「これをやらなければいけないのだな」ということを、また次の人たちにも引き継いでいきたいと思いました。</p> <p>先ほど「コミュニティガーデン」という話もありました。公園に既存の愛護会がたくさんありますが、やはり若い人たちはそこにどうやって入っていったらいいか分かりません。地域の公園のちょっとした空間で何かつくりたくても、どうすればよいのか分かりません。その手立てについて、分かる仕組みのようなものをつくっていただくことを今後期待しています。</p> <p>コミュニティガーデンはただ花できれいにするだけではなく、小さな空間に人が集まるわけです。ここで手入れ等を含めながら関りを繰り返していくと、何かあったときにここに集まればいいし、何かあったときに「この人たちがいる」というように、色々なコミュニティが出来上がる手立てになると思います。ただ花できれいにすることもありますが、それ以外効果も期待できるのかなと思います。</p> <p>子供が遊んでいる横で手入れをしていることは防犯にもつながります。色々なメリットがあると思います。</p> <p>今、私が卒業した大学で、環境に関するサークルの学生たちと一緒に、キャンパスの中に畠やガーデンをつくっています。今の大学生はすごく勉強しています。これから社会に出てるにあたり、環境教育を受けていて、環境に関する知識也非常にあります。関心もあります。</p> <p>今、皆さんから、小学校から中高までの話がありました。横浜市内にもたくさんの大学があります。そういう大学生たちも取り入れるような活動を、農も森も取り入れていってもらえるといいのかなという感想を持ちました。</p>
--	--

	<p>(進士座長) 高田さん、緑と、広報部会についてもお願いします。</p> <p>(高田委員) 私は、地域緑のまちづくり事業の助成金をもらい、一国の沿道の民有地を緑化しています。</p> <p>鶴見区で、うちの地域から1キロもないところに弁天池があります。農業用水の池です。どんどん住宅化が進んでいますが、ほんの小さい弁天様があり、周りに水がたまっているところがあります。</p> <p>そこに毎年のようにカモが飛んてきて子育てしています。</p> <p>今回、自治会や地域の人たちがそこに地域緑の団体を立ち上げました。私はまだ会っていませんが、是非会って、連携して何かできたらいいなと思っています。このようにだんだん色々な活動が増えていけばいいです。</p> <p>先ほどから「連携」という言葉がたくさん出ています。どうやってつないでいき、増やせばいいかということです。地域みどりのまちづくりはとてもいい制度なのですが、なかなか増えません。コロナが原因だったり、色々あるでしょうが、実際活動していると、こんな近くにいる団体でもあまり会話ができません。今、弁天池でやろうとしている人は、私のことを知っていると前から聞いていたのですが、そんなに近くても関係ができないというのは残念でした。これからつくるとは思っていますが。</p> <p>そういうことが横浜市全体で起きていると思います。何かちょっと思いはあっても、どうやって始めたらいいのかというところが難しいです。確かに、市の中ではコーディネーターの先生方がいたり、色々な説明会などをやってくれています。実際に私のところに見学に来て立ち上げた人もいました。実際に目で見て、苦労したところなど話が聞けてよかったです。花で活動したり、同じような取組をしている団体や企業の人などで、年に1回程度卒業の会のようなものもしています。それだけではなく、市にもう少し連携できるような仕組みづくりをしてもらえたらいいです。</p> <p>もう1点、団体ができたはいいけれど、続けられていないところもあると耳にしています。その原因は具体的に調査しないと分かりませんが、もう少しその辺も取り上げてもらいたいです。</p> <p>ただ緑色になったのでは、いわゆる「みどり」ではないと思います。色々な意味でのみどりが大切です。その一つとして、生物の調査や植物の指標をつくってもらいたいです。私もいつも、どうしたらいいのか悩みます。シンプルで誰でもできるバイブル的なものがいいです。</p> <p>横浜市のまちにありそうな植物なり動物を何十種類か1枚の紙にまとめてチェックするだけでもいいです。継続性や、地域ごとに連携してどうだったかという結果などをまとめてみてはどうかと思います。個人個人でただつくるのではなく、全体で一貫してできていればいいのかなと思います。そういう取組もしてもらえたらと思っています。</p> <p>次に、広報については、市民目線で参加させてもらいました。本当に5人とも、はじめは何も知らない状態でした。みどり税の存在は分かっていても、実際にどんなことが行われているかは分からず状態で始めました。調査部会やそれぞれの部会、私たちの広報紙の取材で現地を訪問しながら、本当に一つずつ勉強させてもらい、大変感謝しています。</p>
--	--

具体的に、報告書案の変更した点についてまず話します。P50の「実績」の、広報の記事掲載のところで、最初は「神奈川新聞、こどもタウンニュース、かんきょう横浜」という項目だけが載っていました。ほかの自治会のリーフレットなどは大体想像できましたが、「エコチル」や「こどもタウンニュース」はあることも知りませんでした。「エコチルとは何か」という質問もありましたので、皆さんに知ってもらう意味でも、どのぐらいの部数が発行されているのか、少し具体的に書いてもらいました。HP等を検索するうえでも、少し詳しく分かった方が検索しやすいのかなと思いました。

P51の「交通広告の動画」も、どの辺りでどのぐらい行われているのか、私たちが知りたかったということもあり、書いてもらいました。

P53では、「コロナをきっかけに身近な場所であるみどりの存在を知ってもらえた」という意見もあったので、担当者コメントに継続的な広報の必要性についても一言入れてもらいました。

その下の評価・提案についても、「子供が」だけになっていましたが、中高生や大学生など、若い人向けの広報がより重要で、次世代にフォーカスしてもらいたいと思い、文言を追加してもらいました。

その下の●のところで、どんなところで情報発信をしたのか私たちも知りたかったので、「公園やマルシェなどの市民がつどう場所」と入れてもらいました。

部会長コメントですが、この部会では、皆さんに迷惑をかけながらも、私が部会長をさせてもらいました。望月先生には色々とアドバイスをいただきました。「何でも言いたいことを言ってください」と言ってくれたので、私たち5人も本当に色々なお願いをしたり、色々な意見を言わせてもらいました。5年前の最初の状態から思うと、本当に色々なことが変わってきたと思います。

高橋さんは水の関係に詳しく、森部会にいました。村松さんは農部会にいました。奥井さんも愛護会だったり、食について活動しています。国吉さんは園芸を教えたり、活動もしています。それぞれみどりの分野で活動しているからここに参加しています。私も地域縁で活動していますが、知らないところはたくさんありましたし、皆さんそれぞれの立場でも「こういうことだったのか。こういう仕組みだったのか」ということを、改めてこの会に来て初めて知ったのです。なので、私たち以外の市民がどれだけ分からぬかも実感しました。これをどうやって伝えたらいいのか、できる限り案を練りながら広報紙づくりをさせてもらいました。

何しろ分からなかったので、分かりやすくしようと検討を重ねました。より詳しく知るにはどうしたらいいか。それに2次元バーコード等を使うと、それぞれが知りたい情報をより深く深堀できるのではないか等、様々なアイデアを出しました。

『みどりアップAction』の前は『みどりアップQ』という広報紙でした。このQは「クエスチョン」のQと「クオリティ」のQということで、活動の導入編をやってもらったと思います。

今回、私たちはそれを使って本当にアクションを起こして、知ったり、楽しんだり、皆さんに身近に感じてもらおうとしました。人のみどりではなく、自分のみどりで、みんなが進んでいける方向に持っていきたいと思い、『Action』という言

	<p>葉でやらせてもらいました。</p> <p>『Action 9号』は卒業編として、橋本さんに歴史的な面から未来に向けての話を色々聞かせてもらいましたが、私たちなりに今までやってきたことを書き込みました。これまで分かりやすくシンプルに、目で見てすぐ分かることを目指してきました。今回は少し文字が小さくて見づらい点はあるかもしれません、「私たちのお薦め」ということで、活動のページに飛べる二次元バーコードも掲載しました。</p> <p>こういうことができたのは、今、HPがとても分かりやすくなつたおかげでもあります。本当に、市の担当者のご尽力で、絵も表も言葉も非常に伝わりやすくなっています。私たちもここにつなげて、皆さんに参加してもらうことが目標になっていました。これから官民一体で、市民と横浜市全体で引き続き連携していくことを望んでいます。今後ともよろしくお願ひします。</p>
(進士座長)	今の部会長のコメントで、「HPが非常に細かく、よくできている」というのは書いてありますか。
(高田委員)	はい。書いてあります。
(進士座長)	頑張っている職員もいるので、ほめてあげてください。
(高田委員)	はい。
(高橋委員)	<p>この5か年の評価・提案のP42柱3の赤字部分で、「北寺尾六丁目の公園において」という文言があります。この公園にはかまどベンチやマンホールトイレも整備されます。是非、防災機能のある公園であることをアピールしてもらいたいです。市民も防災にはすごく関心があります。それだけでも随分違うのではないかと思います。</p> <p>こういう公園があれば、その周りの自治会・町内会の避難場所になつたりするわけです。防災訓練では、できればかまどベンチで実際に薪を焚いてもらえたとと思います。その薪は、市民の森や樹林地の間伐材を供給できるような仕組みにしてもらいたいです。</p> <p>炊き出し訓練もするときは、横浜農場の協力も得たらよいのではないかと思います。地産地消に限りませんが、そのようなものを提供したりすることで、防災訓練にも多くの人たちが参加できる切っ掛けになると思います。柱1から柱3をうまく活用した取組もしてもらえたとと思います。</p>
(進士座長)	はい。事務局はぜひ対応してください。
(高田委員)	<p>先ほど先生から冊子を紹介してもらいましたが、広報よこはま3月号の表紙には、みどりアップ計画が掲載されています。それだけでなく、開けるとこんな感じになっています。素晴らしい形で掲載していただき、ありがとうございました。</p> <p>私は区役所との連携ということをずっと言っていましたが、今回は鶴見区版にもみどりの情報が掲載されています。ほかの区がどうなっているかはわからないですが、それぞれの区で掲載してもらつとうれしいです。区版に掲載するときにもし私に意見が言えることがあつたら、市民の森のことをもっと入れてほしかったと思つたりもしました。「もう少し連携して」という話がありましたが、仕組みが分かって機会があればとは思います。</p>

	<p>私たち市民委員は5年間で活動が終わりますが、「これで終わってしまうのはもったいない」と話しています。5人でそれぞれ活動しますが、OB会などをつくり、連携を取ろうという話もしています。そういうことがもっとほかのところでも起こったらと思います。また指導してもらえばと思います。</p> <p>(進士座長) 是非、同窓会を活発にやってください。 この市民推進会議の5か年のまとめのページで、まだ委員意見が入っていません。</p> <p>(事務局) 今回、緑部会の延期のこともあり、事務局の依頼が遅れました。皆様のコメントも含めて、まだ編集が全部できていません。事務局で精査した上で改めてコメントを記載します。</p> <p>(進士座長) はい。 ほかに、何か意見はありますか。</p> <p>(高橋委員) 旧上瀬谷通信施設地区で開催される「GREEN×EXPO 2027」は、横浜市水と緑の基本計画では、「首都圏全体を見据えた防災と環境再生の一大拠点と位置付け、平常時には広く首都圏の人々が訪れ、農とみどりを楽しみ、災害時には首都圏の広域防災拠点となる空間を目指す」とあります。是非とも、開催中の防災対策、特に災害による停電や断水、通信障害、帰宅困難者、避難所機能などの対策が、GREEN×EXPO終了後も生かされ、広域防災拠点としての役割を持つことを情報発信してもらいたいです。</p> <p>(進士座長) そのとおりです。能登だけでなく、しょっちゅう災害の話が出ています。今の話のようなことは当然、担当者は考えていると思います。念を押してもらったと理解します。 今の二つの議題について、基本的には了承してもらいました。意見もありましたので、事務局の方で若干手が入ったりすると思います。あとはまとめて私の方で確認します。</p> <p>(進士座長) では、2つ目の議題に移ります。次第に書いてある通りです。私は長いこと座長をやらせてもらいましたが、残念ながら退こうと思います。詳しくは事務局からお願いします。</p> <p>(事務局) 昨年から進士座長より、座長退任の意向があることを事務局としても伺っていました。話合いを重ねた結果、今年度3月いっぱいまで退任の運びとなりました。報告書の最終確認等は引き続き進士座長にお願いする予定です。 進士座長の退任に伴い、2024年度以降の新たな座長を選出することになります。横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第4条2項の規定により、座長は委員の互選によって定めることになっています。</p> <p>よって、皆様による互選という形で、次の座長を選出していただきたいと思います。</p> <p>(進士座長) ということで、新しい座長を決めなければいけません。互選ということになっていますが、やりたい人はいますか。そうでなければ推薦したいと思います。 では、私から池邊さんを推薦したいと思います。皆さん、どうでしょうか。</p>
--	--

	<p>(拍手)</p>
(進士座長)	<p>たくさんの拍手をもらいました。皆さんご賛成ということでおろしいでしょうか。 では、挨拶をお願いします。</p>
(池邊委員)	<p>今、座長の一声で皆さまから承認していただいた、千葉大出身の池邊です。 私は千葉大出身ですが、千葉の出身ではなく、東京都出身です。親は横浜中華街が好きだったので、小さいときから、休日には連れて行ってもらいました。 幼少期には、農大の近くにある馬事公苑で馬に乗ったり、豊島園に行ったりしました。自宅が近いので新宿御苑にも行きました。あと、目黒の自然教育園でザリガニを探っていました。 横浜は広いですが、私は横浜に初めて来て案内してもらったときに、「こんなパラダイスみたいなところが東京からこんなに近いところにあるのだ」と、非常にびっくりしました。 千葉大には行きましたが、千葉は遠すぎてなかなか行けません。逆に、横浜は新宿からも比較的近かったので、よく来ることができました。 学会でも、横浜市に縁があり、瀬谷もそうですが、色々な地域を学生のコンペの対象地にさせてもらいました。色々な機会があり、横浜にはとても愛着を感じています。 私は12年間千葉大に奉職しましたが、コロナを除き、毎年、2年生を横浜に連れてきました。というのも、横浜のみどりはこんなに多様だからです。外交官の家のような素敵で歴史的な場所もあれば農地もあります。運がいい時には、飛鳥のテーピングをさせてもらった幸せな学生もいます。2年生を80人ほど、動物園に連れて行ったこともあります。動物園のバックヤードもランドスケープを学ぶ私たちのテリトリーであることを学生たちに説明してきました。 私は小学生のときに『みどりのゆび』という本を読みました。チト（注：主人公の少年）が、私をこの業界に導きました。なぜウクライナの問題が起きている今、『みどりのゆび』が世界中で翻訳されて配られないのだろうかと思うぐらいに愛しています。 私は今、私立の大学院大学に副業を持っています。そこでは社会起業構想論や地域イノベーションを教えています。 先ほど、農の中で「ビジネス創出支援が1件」というのがありました。私は、3つの柱が一緒になって新しいものを打ち出せるといいと思っています。農福連携でも林業と公園でもいいです。また、子供と農業でもいいと思います。そのようなことがこの新しい計画の中にうまくスキームとして持ち込めて、横浜スタイルという形で、環境先進都市横浜にふさわしい市民のライフスタイルになればと思います。新しいことをできて、それを市で支援してくれればと思います。そして市だけではなく、市民の税金によって支援されるようにできれば有り難いです。 私は進士座長のような偉い人ではないので何もできないかもしれません、是非皆様方に手伝ってもらい、何とか次期計画が終わるまではきちんと責任を持って座長を務めたいと思います。どうか協力よろしくお願ひします。</p>

	<p>(進士座長) ありがとうございます。 先ほど公募市民の人は全員発言してもらいました。今期でこのメンバーでの会議は終わりますので、ほかの方々からも一言お願いしたいと思います。 池島先生、お願いします。</p>
	<p>(池島委員) このみどりアップ計画には、大学の有識者の立場で参加はしていましたが、私自身横浜に住んでいます。毎日の通勤でみどりアップのポップがあるところも見かけますが、ないところもあります。調査部会などで横浜市の各地に行き、紹介してもらったところでも、ポップはないけれども、みどりアップの取組をしているところを色々教えてもらいました。もっとポップを活用していくと、市民にも認知しやすいのではないかという気がしていました。最近はところどころポップが増えている印象を持っています。職員も市民もそういうような意識が芽生えてきたのだろうと思います。みどり税で大きな制約の中でできること、できないことがある中でも、非常に根づいている取組だと思います。引き続きこれらの制度を活用しながら、もっと横浜市のみどりの素晴らしさを発信できればいいと思っています。</p>
	<p>(進士座長) ありがとうございます。 先ほど発言した人でも、「今、改めて考えるとこれを言わなければ」というのがあるかもしれません。ひとつおりさつといきたいと思います。</p>
	<p>(岩本委員) 今回のみどりアップ計画を初めて見ましたが、素晴らしい冊子を作ってもらったと思います。前の会議のとき、「もう少し何とか」という進士先生の話もありましたが、見やすい冊子ができます。多少の予算もかかったのかなと思っています。これなら、皆さんによく見てもらえるのではないかと思います。 これまでの取組でも具体的に目標を定め、成果が上がってきました。 街路樹帯の低木等の中にもススキが生えて、小学校低学年の児童の目に当たります。非常に危険だと感じていましたが、最近は街路樹帯の草も少なくなり、高木も非常によくせん定されています。2027年に向けての園芸博の準備が着々と進められているのかなと実感しています。 市民の森も現在、横浜市で48か所になろうとしています。非常に多くのところでみどりアップの計画が進んでいて、みどり税も各所で利用されていることを、私自身も現場で実感しています。 これからもこのみどり税を利用して、みどりアップ計画をますます推進してもらいたいと思います。 昔は「緑政局」でしたが、市長が替わったときに、今度は「環境創造局」となり、また今回、「みどり環境局」になるそうですね。 今日も朝6時頃、窓を開けると、外で鳥がうるさいほどさえずっていて、緑の木々の間から朝日が差し込んでいました。自分たちもそうですが、横浜市民の皆さん、特に子供たちや若い人にこの環境、この感覚を市民の森や公園など、色々な場所で味わってもらいたいと思いました。 私の孫は男の子ですが、今日小学校の卒業式です。友達とみんなでハカマを着て出席するということで、朝一番で記念</p>

	<p>写真を撮ってきました。</p> <p>下の孫も女の子で、来年卒業式です。友達とハカマで出席しようと相談しているとの事、私もちょっと信じられないのですが。</p> <p>そういう子供たちがこれから横浜を背負っていきます。今日、何か複雑な心境で出てきました。</p> <p>2050年には日本国民は7,000万人に減少すると報道されました。50年、60年たつと、ちょうど子供たちが私たちの年になるのかなと思います。またそれも複雑な心境です。</p> <p>森部会でもこの前、望月先生と話しましたが、30年後、50年後、今の木がどのくらい大きくなるかなと思います。一つの木もそうですが、森全体のことも考えました。</p> <p>自宅のそばにも源流の森がありますが、今、どんどん樹木が大きくなっています。最近、歩道の周りの木の伐採もしてもらい、非常に環境もよくなりました。</p> <p>そのような緑の維持管理を見ていると、このみどりアップ推進会議の役割はますます大きなものになるのかなと感じています。</p> <p>(進士座長) 今関さん、お願いします。</p> <p>(今関委員) 私は31日で、よこはま緑の推進団体連絡協議会の会長を交代します。次からは代わりの人が来ることになっています。</p> <p>今ごろやっと、このみどりに関わる計画が全部分かって感じです。私も横浜に越してきて、みどりに関わり出してちょうど40年です。越してきた場所は、山を住宅地にしたところです。「できるだけみどりを残そう」と言ったら、前から住んでいる地主から「あなたたちは山を崩して越してきたのだろう」と言わされました。でも、できるだけ残していきたいと思ってやってきました。</p> <p>私たちの代がだんだん年を取ってきました。子供たちは卒業して社会人になると、別のところに住宅をつくってしまいます。私たちが建てた家は40年もたつと壊されて、新しく建て替えられることになり、前からあったみどりがなくなりました。残っているのは公園だけではないかというぐらいです。</p> <p>その公園も、山の状態の時から残っていた木が大きくなりすぎて伐採され、半分以下になってしまいました。年数がたつと、大きな木はどうしても切られてしまいます。そうすると、「また緑が減った。屋根だけになった」という感じです。</p> <p>今頃やっと、やればよかったと思っていることは、子供たちのことです。私たちも公園愛護会をつくって活動してきました。子供が公園を使っているからということで愛護会活動をしてくれていた人が、40年、50年たつと年を取ります。「誰か若い人が代わってくれないか」と言う一方で、若い人たちが手を出しかねていたことが分かってきました。私たち年寄りが一生懸命やっているから、手を出していいのか分からずにいたのです。「ちょっと手を貸して」と一声かけておけば、もう少し参加してくれたのかなと思います。</p> <p>昨年の秋、小さい子たちをチューリップの球根植えに誘つてみたら、手を泥だらけにしながら喜んで一生懸命植えてくれました。</p> <p>公園の花壇を増やしたこともあり、私たちだけでは管理しきれません。そこで若い人たちに「自分で好きな花を植えて構わないから」といって声をかけたら、「やるとき言ってください。手を貸しますから」と言わされました。私たちがいかに</p>
--	--

	<p>周りに声をかけなかったのかというのがよく分かりました。もう5年ぐらい頑張って、緑化活動を続けます。今度、次の代の男性が来るので、よろしくお願ひします。</p> <p>(進士座長) ありがとうございます。 では関根さん、お願ひします。</p> <p>(関根委員) 私もどちらかというと、公募委員のようなものです。横浜市連会から派遣されて、2年間やりました。 この委員になって、みどりアップ計画のことをちゃんと知りました。税金のことはよく知っていましたが、それがどのように有効に使われているのかは分かりませんでした。 3月の市連会でこのみどりアップの話が出ましたが、ほとんどの地区連長が「あれは时限立法だろう。まだやるのか」と話していました。「何をやっているのかよく見えてこないのに、まだ取るのか」というような話がほとんどの区連長から出ました。 私は2年間こちらに参加しているので、「こういうことだ」と説明しました。やはり自治会長たちは知らないのです。ですから、私から「広報をしっかりとお願ひします」と言ったと思います。 自分たちが大学生の頃はフィトンチットといって、みんな登山などに行きました。そのぐらいみどりは人の心を変えます。この横浜のみどりを大事にしてもらいたいし、世界に誇れる横浜になるためには必要なものです。将来に夢と希望を持ち、前向きに物事を考え、世界に羽ばたくような人間を育てるためには必要なのだという話もしました。 新しく森を買い取って創成していくのは非常に税金もかかります。宗教的な問題が絡んでくるから難しいのかもしれません、各地の神社仏閣は大きな森を抱えています。神社仏閣を支えている氏子や檀家もいます。そういう人とうまく連携すれば、もう少し安くみどりを創成できるのではないかという話をしました。池邊先生からも同感してもらいました。 やはりこの横浜が持続可能な発展をしていくためには、みどりをうまく使うことです。 また、今少子高齢化で空き家対策をしていると思います。公共交通などをうまく整備して、空き家を創出しないようにしてもらいたいです。 子供たちは中学校まではその土地にいますが、高校に入ると外へ出ていきます。交通の便が悪いとその土地を離れて、学校に近いところに行ってしまい、空き家が出てくる一因となります。公共交通もしっかりと見直し、トータルで取り組んでほしいです。 縦割行政を極力廃して、横断的に市政をやってもらい、創造的にみどりをアップしていけば、子供たちが本当に夢と希望を持って成長していける、世界に誇れる横浜になるのではないかと思います。自治会を長年やっていて、地域の持続可能な発展のことを考えると、つくづくこういうことを思います。18区の区連長もみんな異口同音の考え方だと思います。 みどりアップだけでなく、本当に全体的にこの横浜市の将来を考えてやってもらえたたらと思います。 私も今回で終わりになるかもしれません。区連長の交代の時期で、退けばこちらへは参加しなくなると思いますので、地域の全体の状況や気持ちを話しました。</p>
--	---

	<p>(進士座長) ありがとうございました。 では、報告書等の扱いも含めて、これからのこととを事務局からお願ひします。</p> <p>(事務局) それでは事務局から事務連絡をさせていただきます。 報告書については、今日皆さんから意見をもらいましたので、事務局で修正し、進士座長に確認してもらいます。 この報告書案は、1月末までの実績を載せています。最終版は3月末までの実績値に更新して、ハイライトを含めて図等も掲載します。 進士先生に確認してもらい、市としてみどりアップ5か年の実績報告を発表した後に、こちらの推進会議の報告書も発行します。 今期の市民推進会議は今日で最後ですが、皆さんにはまだ、議事録の確認等もお願ひすることになります。こちらに関しては、参加した皆様しか確認できません。事務局から再度依頼するのでよろしくお願ひします。 また、『みどりアップAction』がついにまとまりました。これから3月下旬にかけて、駅や区役所等に設置します。皆様にも事前に送付したと思います。是非ご活用いただき、『みどりアップAction』の取組を広げてもらえればと思います。 この後、座長からの言葉と事務局からの挨拶になりますが、最後に記念撮影をします。会議終了後、少しだけ残ってもらえればと思います。</p> <p>(事務局) それでは、最後にこれまで市民推進会議にご尽力いただいた進士座長より、ご挨拶をいただきたいと思います。 進士座長、よろしくお願ひします。</p> <p>(進士座長) はい。ということで、長いこと皆さんにお世話になりました。これで失礼したいと思います。 私は横浜とは助手の頃からの本当に長い付き合いです。有隣堂の昔の社長だった松本さんや、ウイスキーのイラストを描いた柳原良平さん、山手のゲーテ座の岩崎さんという女性もいました。あの人は横浜駅の近くで専門学校を幾つもやっています。岩崎学園です。そういうメンバーでおしゃべりしました。佐藤さんという、ずっと昔の助役もいたかなと思います。 横浜は本当に多様なみどりなのです。都市農地活用センターで「ポスト2022年の都市農地」を出しました。たしか農政の職員も参加しています。これはたしか、無料でもらえます。</p> <p>(事務局) 配っています。</p> <p>(進士座長) 池邊さんが農地のことなど色々と言っていましたが、農というのは基本なのです。まちの方では農地を壊して宅地をつくります。首都圏は、全員が自然を壊してきた人です。だからこそ罪滅ぼししなければなりません。 森だけがみどりではないので、色々なタイプのみどりがあるわけです。私はそれぞれでやっていいと思うし、それぞれのやり方があると思っています。 ただ、人の暮らし方はみどりとの距離があります。距離の近い人と遠い人がいます。政策はどうしても総合的にやるしかないので、どこかだけ見ると非常に問題が多いのです。 もともとみどりの問題は、普通の生活の中で誰でも感じる</p>
--	--

能力があります。教育に関心のある人は環境教育でとらえますし、食生活でとらえる人もいます。これまで横浜市政は、非常に環境創造的に総合化されてきたのです。

「みどり」という言葉は入り口で、共通語で、一般名詞ですが、それを政策化し、全てにわたって統合化してきました。でも、根っこに農があることだけは間違ひありません。こういうのを見ると、公園行政も森の行政も同じだと分かります。

この冊子を見てください。とても魅力的です。都会の一流高層マンションに住んでいて農に距離がある人でも、「こういうものがあったら意外とハッピーではないか」と思ってくれるのです。

つまり、みどりは見るものではなく、体験するものなのです。それなのに、見るものとしてとらえたり、開発か保護かというイデオロギーのような対立関係にとらえたりします。

私から言うと、やはり伝え方が下手なのかなと思います。マスコミなどはどうしても、農か開発かという二者択一の論議にしてしまうのです。これはマスコミの人自身が体験していないからなのです。

だから、「保護か開発か、どちらかではないか」と言いますが、そうではありません。中間的なものがたくさんあるわけです。「ほとんど残す」から「ほとんどつくり直す」まで、色々な段階があります。つくったものも必ず直して、新しいものをつくっているのです。それが緑化だったりします。

みどりは多様性に富んでいるので、どういう人の言い分も吸収できるような共通のテーマだと思っています。

横浜市が本当に素晴らしいまちになるための非常に重要な接着剤なのです。逆に言うと、ベースなのです。

例えば、こういうビジュアルな資料があり、連合会へ行つて皆さんに配ってもらえると共感を持ってもらえるのです。税金は時限だというのは、望月先生に説明してもらえばすぐ分かります。だから、議会でも毎回審議してオーケーしてもらっているわけです。将来までずっと決まっているわけではありません。将来に続けるためには理解してもらわなければいけません。それで今回、広報・見える化部会では高田さんたちが随分頑張ってくれました。つまり、広報で意味を伝えなければなりません。

この市民推進会議も、計画に税金を使っているのだから、普通は、ちゃんと使われているか監視しろという性格の委員会なのです。だけど、市民の実感で政策に反映し、政策そのものをもっと豊かに、本当に市民の腑に落ちるように変えていこうという15年でした。私にとってはそういう非常に重要な会議でした。

だから、できるだけ色々と本質的なことも伝え、皆さんの言い分も聞き、自分自身も少しずつ変えながら運営してきたつもりです。

ただ、時間も決まっていますし、私もそうですが、しゃべり出すとずっと止まらない人もいます。そういうこともあって、皆さんに満足してもらったかは自信がありません。

ただ、私自身もそういうつもりでやってきたので、是非これからも池邊先生を中心に、実りある市民推進会議にしましたらえたらと思っています。

皆さんはまだGREEN×EXPOもあります。都市緑化フェアもやりました。

藤田さんは私と同じで地味です。せっかく彼我庭園をやってピースランタンを置いたのですが、新聞も全然話題にしま

	<p>せんでした。平和の問題はみどりの問題ではないと思っている人が多いです。現代社会は全ての人が物事を整理しすぎてしまうのです。世間というのは本当は全部一つなのです。</p> <p>でも、そういうことなので、バラの花や里山ガーデンは人気になりました。</p> <p>「公園とみどり 横浜の150年」の冊子は、相場さんが中心となって、皆さんで作ってくれました。私は、これは本当に歴史的出来事だと思っています。知っている人は知っていてほめてくれますが、これあまり知られていません。そういうものなのです。</p> <p>やはり世の中は、ランドマークタワーを建てるほうが目立ってしまうのです。でも、まちの風景は背景があつてこそ、なのです。関内地区やみなとみらい地区の高層ビルだけではなくて、圧倒的な横浜のみどりがあるからなのです。そこは忘れてはいけません。</p> <p>一方で、緑化フェアもGREEN×EXPOもそうです。EXPOは一種の図となります。「図と地の関係」といいますが、しかし瀬谷の里山や農地など自然と暮らしの両方があるということが重要です。グリーンの環境とグリーンライフの総体を理解できるGREEN×EXPO 2027が好ましいと私は思っています。</p> <p>皆さんもそういう意味で、自分の暮らしの中で「みどりアップ」を是非考えてもらえたらと思います。豊かな都市というのはそういうものだと市民の皆さんが納得してくれると思います。</p> <p>高田さんたちの広報部会同窓会にも期待しています。暇があったら行くので呼んでください。</p> <p>本当に長いことありがとうございました。</p> <p>(事務局)</p> <p>進士座長、本当にありがとうございました。 最後に、事務局から閉会の挨拶があります。 理事藤田の方からご挨拶させていただきます。</p> <p>(事務局)</p> <p>皆様方、本当にありがとうございました。 皆様が委員に就任してからの思い、取組をしているときの思い、子供たちに向けてのメッセージ、個々が本当に素晴らしい、永遠にこの市民推進会議をやってみたい気持ちになったところが事実です。議論、評価をありがとうございました。</p> <p>皆さんに参加してもらい、多方面にわたって評価してもらうことで、みどりアップ計画が15年やってこられました。</p> <p>進士座長には、みどりアップ計画の当初から3期15年関わっていただき、市民推進会議の組織をつくってからは、様々な委員の意見をしっかりとまとめてきていただきました。更にそこにメッセージや「こういう意見も」というところをご意見いただき、まとめるというだけでなく、みどりアップの意義も含めてメッセージを多分にもらいました。私も会議をする度、「本当に素晴らしい」と感じてきました。</p> <p>長年、座長を務めていただき、本当にありがとうございました。</p> <p>現行のみどりアップ計画はこの3月で終了するというのは先ほど説明があったとおりです。来年から次の5か年の計画にしっかりと取り組んでいきます。</p> <p>こちらの冊子の風景は寺家ふるさと村です。映っているのは全部横浜のみどりです。</p> <p>実はこの1年、みどりアップの更新にあたっては、府内で色々な議論をしてきました。その中で、府内的にも「いいこ</p>
--	---

	<p>とをやっているけれど、それが伝わってない」というディスカッションがありました。この新しい冊子を作るときにもそれを何とか反映していこうと、うちの広報部隊にも底力を出してもらいました。それで今回、ドローンで撮影した幾つかの写真から、この写真を選びました。</p> <p>先ほど紹介があった広報よこはま3月号に載せてから、通常ないほどの問合せが私どもの部署に届いています。それで「よかったです」と共感してもらうところが本当に大切なと思いました。</p> <p>今までその取組をやっていたつもりではありました、実感されていなかったところがあったかもしれません。一方的な情報で、実績内容の周知にとどまっていた部分があつたかなと思っています。これについては、今年度皆様にもらつた意見も含め、これからもしっかりとやっていかなければいけません。</p> <p>みどり税の答申をもらったときに望月先生にすごくお世話になりました。みどり税の決議の付帯意見として、「しっかりと広報や周知に取り組み、これからも進めていくべき」と言われています。もう一つは、「その時々の必要性に応じて臨機応変に対応していくべき」との意見ももらいました。</p> <p>今日このメンバーでは最後になってしまいますが、先ほどO B会の話もありました。本当に、今日参加している委員に、熱い思いでみどりアップ計画に参画してもらったことを改めて実感しました。引き続きお世話になりたいのが本心です。</p> <p>横浜市は2027年にGREEN×EXPOという形で開催します。くしくも今日、3月19日がちょうど3年前です。</p> <p>実は東京で3年前イベントをやっていて、市役所アトリウムでもそれを同時に放映するイベントを2時から4時までやっていました。</p> <p>花とみどりも含めて、「環境」というキーワードでグリーンという分野を広げて、横浜から世界に発信していく取組として進めていこうと思います。従来の国際園芸博覧会の枠を少し超えた分野を含めて、「環境」というキーワードでこれから発信していきたいということで、内容を詰めているところです。色々な記念イベント等も含めて、走りながら盛り上げていくというのが現在の状況です。</p> <p>また気づいた点があれば知らせてくれればと思います。5年間どうもありがとうございました。今後とも職員一丸となって取り組んでいきます。</p> <p>(事務局) 以上で市民推進会議を終了します。今日はどうもありがとうございました。</p>
資料 ・ 特記事項	次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議2023年度報告書（案）